

中国自然歩道 阿弥陀川

この清らかな山の小川は南の三鈷峰と野田ヶ山の水が集まり流れ出ているものだ。大山の数少ない水路のひとつで、雨や雪解け水で流れはかなり変わるが、清流が絶えたことはない。

川は清く信頼できる水源を求める住民たちを長い間引き付けてきた。1749 年から 1936 年まで、この地域には木鉢づくりを業とする 6 ～ 7 家族が住んでいた。彼らの家のほとんどは現在駐車場と中国自然歩道がある周辺にあった。今は川床・一向平コース案内図の看板がある。墓と住居の跡が川岸沿いに見える。

中国自然歩道は 2018 年 9 月に完成した長さ 17 メートルのトラス橋で阿弥陀川を渡る。かつては低い丸太の橋があったが、何度も流されたのでトラス橋に変えられた。

この川のコースに沿って滝がいくつかあり、最も上流にあるのが一番有名な阿弥陀滝だ。この高さ 44.7 メートルの滝はハイカーに人気があり、たくさんの人が川岸に沿って伸びる峡谷を登って滝へと辿りつく。登山者が必然的にずぶ濡れになることから「シャワートレッキング」と呼ばれるアクティビティだ。